

東京都サービス管理責任者研修及び児童発達支援管理責任者研修 実施概要(分野別研修)

分野	第一分野:介護	第二分野:地域生活(身体)	第三分野:地域生活(知的・精神)	第四分野:就労	児童発達支援管理責任者
対象となる事業	療養介護・生活介護	自立訓練(機能訓練)	自立訓練(生活訓練)・共同生活援助・自立生活援助	就労移行支援・就労継続支援A型/B型・就労定着支援	児童発達支援・医療型児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・福祉型児童発達支援センター・医療型児童発達支援センター・福祉型障害児入所施設・医療型障害児入所施設
サービス/支援提供の基本的姿勢・視点(28国研修テキストより)	(1)小さな変化に気づく観察力を (2)利用者の能力を伸ばす支援 (3)利用者個々に応じた活動を創る (4)利用者のニーズに応じて次の生活を目指す (5)地域行事への参加やボランティアの利用など社会参加に配慮	(1)リハビリテーションにおける機能訓練事業の位置づけ (2)社会生活力をつける (3)自立生活に向けた支援 (4)支援者が指向する目標 (5)地域移行後を意識した取り組み (6)相談支援専門員、地域の関係機関との連携	(1)ケアマネジメントの基本的視点 (2)聴く・知ることから始まる支援(根拠) (3)活用する支援 (4)固有ニーズへの支援 (5)生き方に関わる支援 (6)一人の住民へ誘う支援	(1)潜在的な能力やはたらく力を見出し、最大限に引き出す環境を整えているか (2)社会経済活動の一員としての自覚や誇りが持てる労働のあり方を提供しているか (3)施設外支援及び施設内での支援において社会経済活動に主体的に参加できる労働環境を提供しているか	(1)中核的機能は将来の自立に向けた発達支援 (2)親、家族を含めたトータルな支援 (3)子どものライフステージに応じた一貫した支援 (4)身近な地域における支援 (5)集団活動と個別プログラムの効果的な組み合わせによる支援
研修のねらい	<p>・「障害の重い利用者」を対象とする事業のサービス管理責任者として、権利擁護、本人主体の視点を再確認する。</p> <p>・アセスメント(ニーズ整理)の重要性を知る。</p> <p>・サービス等利用計画(相談支援)を含む、サービス提供プロセスを理解する。</p> <p>・事業実施における、サービス管理責任者の役割を体験する。</p>	<p>・機能訓練事業所におけるサービス管理責任者の役割を理解する。</p> <p>・事例を活用しながら一連のサービス提供プロセスの流れに沿って、サービス管理責任者が行うべき具体的な業務と役割を確認する。</p> <p>・アセスメント(ニーズの把握・課題の整理)、個別支援計画の作成や中間評価(モニタリング)、計画の修正のポイントを学ぶ。</p> <p>・他人にわかるように伝える方法について学ぶ</p> <p>・サービスの終了に向けて、多機関と連携の必要性について学ぶ。</p> <p>・サービス提供職員に対する指導及び助言を行うときの視点などを学ぶ</p> <p>・他職種の研修受講者間での意見交換により、幅広い視点や考え方を学ぶ。</p>	<p>・サービス提供プロセス全般の流れを、事例を活用しながら学ぶ</p> <p>・ご本人を中心とした、アセスメント、個別支援計画作成、モニタリングなどに関する具体的な技術を学ぶ。</p> <p>・サービス管理責任者の役割を理解し、職員への助言や指導のあり方、方法等を学ぶ。</p> <p>・サービス等利用計画と個別支援計画の関係を理解する。</p>	<p>・東京都独自の支援体制や最新の障害者雇用制度を知る。</p> <p>・地域支援の一環としての就労支援であることの確認。</p> <p>・様々な地域支援機関と連携し、当事者ニーズに沿った個別支援計画をつくる力を付ける。</p> <p>・地域性を生かした事業展開の必要性に気づく。</p>	<p>・事業所における児童発達支援管理責任者の役割を理解する。</p> <p>・アセスメント(ニーズの把握)と課題の整理を学ぶ。</p> <p>・個別支援計画の作成や、モニタリング(見直しと修正)の仕方を学ぶ。</p> <p>・利用者の支援にあたって関係機関との連携が必要であることを理解する。</p> <p>・会議運営や、支援スタッフに対する指導や助言等について理解する。</p>
名前(年齢)	渡辺 真一(36歳)	氏名はグループ内で設定(37歳)	長尾 まりか(25歳)	竹村 ふみや(22歳)	ヒロくん(10歳:小5)
演習開始時の状況	・生活介護事業所に通って18年になる。次年度の個別支援計画を作成する。	・支援開始から3週間が経過し、担当者会議が行われた。	・生活訓練事業所の利用から6か月が経過し、個別支援計画の見直しをする。	就労移行支援事業所の利用が開始された。	・特別支援学校に入学後は福祉サービスの利用をしていなかったが、家庭状況を考慮し、放課後等デイサービスと移動支援の利用を開始。
利用者及び家族の意向	<両親> 毎日、健康で過ごせるといいです。いまの生活介護事業所には引き続きお願いしたいと思っています。	<本人> 日中は何もすることがなく寝てしまう。行くところもない。できることもない。 <家族> 本人の介護と育児が大変。本人は、まだ体力がなく、寝てばかりのため、どこか外出できるとよい。できれば、将来的には仕事に戻ってほしいが、戻れるのかわからない。	<本人> 退院したばかりで仕事についての不安がある。自立訓練事業(生活訓練)をつかってみたい。	<本人> 仕事をしてお金をかせぎたい。ほしいものがほしい。自分のおきゅうりょうもすこしお父さんとおねえさんにわたしたい。 <父> 仕事をしながら、しょうらいは自分で生活できるようになってほしい。	<本人(両親からの聴取)> ・家以外に楽しく過ごせるところがほしい。 <家族> ・学校と自宅の往復だけで、地域での居場所がない。放課後の時間を安心して過ごせるデイサービスの利用をしたい。 ・兄や妹のための時間を取りたいので、きょうだいと別々に過ごせる時間がほしい。 ・体が大きく、カモ強くなってきたので、公園などへ連れ出したり、一緒に遊んだりしてくれる場所(人)を頼みたい。 ・自分の気持ちを伝えるなどのコミュニケーションができるようになってほしい。
障害等状況	・脳性まひによる四肢体幹機能障害 ・知的障害 ・てんかん(発作は週1回程度) ・摂食機能障害	・脳梗塞による右片マヒ ・原疾患:左基底核梗塞 ・プルンストロームステージ:上肢Ⅲ 手指Ⅱ 下肢Ⅲ ・抗てんかん薬、抗血栓薬を処方されている ・高次脳機能障害として失語症、記憶障害、注意障害がある。	・知的障害 ・気分障害(うつ病) ・発達障害の傾向がみられる	・知的障害	・知的障害 ・自閉症スペクトラム障害
制度利用区分等	・身体障害者手帳1級 ・愛の手帳2度 ・障害支援区分6 ・障害基礎年金1級	・身体障害者手帳1種1級 ・右上肢機能障害2級 ・右下肢機能障害3級	・愛の手帳4度 ・障害支援区分1 ・障害基礎年金2級	・愛の手帳4度 ・障害支援区分未申請 ・障害基礎年金2級	愛の手帳2度
周辺状況	・誤嚥性肺炎のため入院を繰り返し、医師からは胃ろうを勧められている。 ・父は会社を退職しており、食事介助や施設への送り出し等へ積極的に取り組んでいる。母は膝痛を抱えており、医師からは手術を勧められているが家族への負担を考え決断できずにいる。 ・相談支援事業所や施設から居宅介護サービスの利用を勧められているが、両親は拒否している。	・37歳の時に自宅で倒れ、治療後リハビリも日常生活自立には課題が残った。 ・本人の主訴「歩けるようになりたい、右手がうまく使えるようになりたい」 ・職場は休職中。復職についての希望は不鮮明。 ・妻及び3人の子どもと同居、近隣には実父母が在住している。 ・妻は育児と介護により疲労しており、今後の生活について不安を訴えている。	・6歳の時に知的障害の診断を受け、小学校では通級(情緒・発達障害学級)利用。 ・24歳でうつ病の診断を受け精神科へ入院、障害基礎年金2級を取得し、生活訓練事業所の利用を開始する。 ・母親と同居中。遠方にはホストをしている兄がいる。	・幼少期から落ち着きのない様子が見られ、就学前はこども発達センターへ相談したこともあった。 ・高校卒業後の就職先には3年勤めたが、上司や同僚との関係がうまくいかず退職に至る。 ・退職後は次の仕事がなかなか決まらず、自主的に外出することが減少した。 ・父、姉と3人暮らし ・父は、本人の再就職や生活について心配し、幼少期からの経過も考えて区障害者就労支援センターへ相談。 ・掃除や洗濯、料理といった最低限の家事は姉が担っている。	・大人の言っていることは大理解できているが、発語がない。 ・要求は指さしと本人なりの身振りで伝えようとするところがある。 ・要求が通らないと泣いたり暴れたりする。 ・父、母、兄、妹の5人家族 ・父親は平日が忙しく、休日は家にいるものの本児との関わりはあまりない。 ・母親はフィリピン人で、日本語での会話は簡単な内容のみ可能。 ・兄は中学受験を希望している。
実施体制	教室進行 3名(うち都職員3名) ファシリテーター 9名 受講者数 96名 グループ数 5~6名x18G 演習教室数 3部屋	1名(うち都職員1名) 4名(うち都職員1名) 9名 4~5名x2G 1部屋	3名(うち都職員3名) 9名 112名 6~7名x18G 3部屋	4名(うち都職員2名) 12名 164名 6~7名x24G 4部屋	5名 10名 222名 7~8名x30G 5部屋
(休憩・事務連絡等を除く)研修項目時間数	分野別講義 110分 演習ガイダンス等 45分 アセスメント 100分 個別支援計画作成 155分 モニタリング 95分 支援会議(RP) 75分 サビ管・児発管の役割 65分 その他 45分(まとめの講義)	160分 30分 90分 145分 225分 90分 -	90分 50分 200分 120分 110分 70分 50分 -	90分 180分 105分 85分 145分 50分 90分(新規事業立上げ80分+まとめ10分)	100分 50分 120分 100分 120分 85分 50分(まとめの講義)
合計	690分	740分	690分	695分	720分

(表記載の内容は平成29年度第2回当該研修の実施状況に基づく)